

R5 扇レポート 94 備える

給食室前に貼ってある「給食ニュース」です。

もしもの時のために、水と食料を備えようとしてあります。

100 年前の関東大震災、忘れてはいけない地震です。

少年写真新聞
Juniors' Visual Journal
https://www.schoolpress.co.jp/

給食ニュース

No.1901
2023年8月28日号
8月28日号

関東大震災から100年 もしものために水と食料を備えよう

当時の被害のようすを知って、何が必要だったのかを考え、非常時に役立てましょう



地震後のようす。揺れの激しさが、押しつぶされた建物からもわかります。また、近くでは火災も起っています。



当時の東京市の各区役所や警察署による炊き出しなどはありませんでしたが、量は足りていませんでした。

関東大震災データ

いつ 1923(大正11)年9月1日
午前11時58分発生

発生場所 相模トラフ(海溝型地震)

規模(マグニチュード) 7.9

最大震度 6

関東大震災の犠牲者は10万5000人余りで、そのうち9割が焼死といわれています。発生時刻は正午の近く、昼食準備で火を使っていたことや、強い風の近く、直後から火災が発生し、大規模火災になりました。東京では、3日午前10時頃まで46時間わたって延焼しました。

強い揺れによる多くの建物の倒壊、土砂災害のほか、伊豆半島や伊豆大島、三浦半島、房総半島には津波も押し寄せました。

生きる力になる水と食料の備蓄

3日〜1週間分の食料を準備しておきます。

1人1人3L
3L×3日=9L

家用
持ち出し用

防災備蓄、炊き出し前に使われた釜だよ!

今年には関東大震災の発生から100年になります。当時は、大規模地震災害への備えは、ほとんどされておらず、水や食料などもまったく足りていない状況でした。もしもの時のために、どんなものが家族で話し合い、準備しておきましょう。

水や食料の備え方についても、詳しく書いてあります。